

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2025 年
7 月 18 日
第 191 号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会

Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957

honbu@tokyo-jichiroren.org

仲間を増やし、地域とむすぶ 各地の取り組みから

新人歓迎会を開催！つながる笑顔と拍手

板橋区職員労働組合保育園分会

6 月 20 日（金）、板橋区職員労働組合保育園分会主催の新人歓迎会が開催され、新規採用者 27 名を含む 72 名が参加しました。前半は高島平一丁目集会所で、保育園ごとに分かれての軽食付き座談会。サンドイッチを囲みながら、参加者同士が自然と打ち解けていきました。



開会では、区職労の帖佐執行委員長が新規採用職員を歓迎。続いて、入野分会長が、結成 55 年を迎える分会の歩みや、これまで労働条件を勝ち取ってきた歴史、そして「保育の質」と「働く人の条件」は切り離せないというメッセージを伝えました。

後半は高島平トミコシボウルでのボウリング大会！ チーム対抗戦では大歓声と笑いが起こり、上位入賞チームやブービー賞、最下位賞などが表彰されました。参加者全員にも参加賞が配られ、楽しいひとときとなりました。

そしてうれしいことに、歓迎会後に 4 名の新規採用者が組合に加入。交流の輪が広がり、これからの活動へのつながりが生まれました。



この歓迎会が、仲間との絆を深め、これからの保育現場での支え合いにつながる第一歩となったことを感じさせる 1 日となりました。

～早急に中途採用試験の実施を!～

保育政策課長要請行動で厳しい職場の現状を訴え

江東区職労保育園支部

江東区は、職員の子どもが満 2 歳に達するまで、育休代替がこれまで正規で配置されてきました。しかし今年度は保育士の新規採用数が予定よりも少なく、特に 4 月 2 日以降に育休入りする職場では代替配置がほぼ見込まれない状況となっています。そのため、保育園支部は 5 月 23 日（金）に保育政策課長要請行動を行い、16 園、43 名が参加し、中途採用試験の実施を求めました。



職場からの声

「4 月スタートから 2 名の欠員で各クラス配置基準ギリギリの人数で保育をしている。」

「9 月までに産休、育休に入る職員が 3 名いる。小規模園で 3 名の欠員は本当に厳しい。土曜日の運営も困難になる。」

「医療的ケア児の受け入れのために派遣看護師が配置されているが、1 日複数回の医療的ケアの際には、看護師だけではなく保育士も一緒に介助をしている。」

また、別室でケアを行うための体制をとる必要があり、1 日を通して人手を要する。6 月までに産休に入る職員が 3 名いる。医療的ケア児の保育も含めて、園全体の保育体制の確保がとても厳しい。」等、職場の厳しい現状を訴えました。



課長の答弁は…

保育政策課長からは「育休代替職員が配置されないことが問題なのは理解している。配置したいが募集人数に対し人が集まらない。また、保育が優先のため、事務仕事が行えず、やむを得ず超勤になっている状況も理解できる。どうしても人が集まるか、皆さんの意見も聞きたい。」との話もありました。

採用試験実施を訴える

これに対し、組合員からは「まず職員の処遇改善（働きやすい職場、賃金アップなど）が必要である。」等の切実な声がありました。各職場の切実な訴えに応えてもらうように、引き続き採用試験の実施、人員要求を訴えていきます。



【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】